

2019年12月10日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【米中の貿易交渉に関する考察】

このところの外国為替相場は、米中の貿易交渉に対する思惑で、右往左往した、と考えます。

そして、現在も、最重要のテーマは、米中の貿易交渉であり、それに注目して、外国為替相場が動いている、と考えます。

10月10日から、米中の閣僚級の貿易協議が再開されました。

この協議に対する期待感から、マーケット(外国為替市場)は、「ドル買い円売り」「ユーロ買い円売り」「ユーロ買いドル売り」に反応した、と考えます。

+++++

米中の貿易交渉が再開された当初は、わざわざ再開したのだから、何も合意が無く、決裂することも無いのだろう、と考えました。

ただし、私見ですが、今回の協議で、米中間に、何かしらの合意が成立するにしても、根本的な解決には至らない、とも考えました。

根本的な解決には、米中の貿易不均衡が解消する必要があるからです。

根本的な解決のためには、米中の貿易不均衡がすぐに解消しないまでも、少なくとも、解消する方向に向かう可能性が必要だ、と考えます。

そうでなければ、米国は、中国に、何かしらの要求を出し続けるだろう、と考えます。

+++++

今回の(10月10日以降の)米中の協議では、当初は、合意に向けて、前向きな発表が多かった、と考えます。

しかし、その結果も、事前に想定した範囲内だった、と考えます。

中国が米国からの農産物輸入を拡大する、中国の通貨政策の透明性を確保する、などの部分的な合意が成されたことが、発表されました。

ただし、この程度では、根本的な解決には程遠い、と、個人的には判断します。

つまり、上述程度の合意が成っても、米中の貿易不均衡問題は、まだまだ続く、と判断しました。

++++
++++

今回の（10月10日以降の）米中の貿易交渉に関して、中国は、関税を段階的に解消する旨、公表しました。

中国の発表で、マーケット（市場参加者）には、期待感が広がりました。

しかし、少し遅れて、米国は、その発表（関税の段階的解消）を否定しました。

中国の言い分（中国の公式発表）と、米国の発表に違いがあるので、米中が、どのような「合意」をするのか、現時点（12月初旬）でも不透明のままです。

憶測するならば、米国が中国に強い要求をしており、中国は、ある程度の妥協をしたのだろう、と考えます。

中国は、ある程度の妥協をしたのだから、段階的に、追加した関税を解消する方向での「合意」を成立させるつもりだったのだろう、と推測します。

しかし、米国側は、この「合意」は、限定的な妥協に過ぎず、追加した関税を緩める程の内容（合意）ではなく、米中の貿易交渉は、次のステージ（段階）に進む、と考えている、そう推測します。

++++

このところの報道では、中国が追加した関税の解消をあきらめたのではないか、と思われる様子がうかがえます。

その場合は、「合意」には至らない可能性も出てきます。

中国の立場で考えれば、米国に譲歩したのに、実利が伴わないのならば、「合意」する必要が無いからです。

++++
++++

そして、正式な合意が成立する前に、11月27日に、トランプ米大統領は、上下両院で可決した「香港人權民主法案」に署名し、同法案が成立しました。

この法は、香港の高度な自治を保障する「一国二制度」を、中国が守っているかどうかを米政府が検証する内容であり、中国政府は、不当な内政干渉であるとして、強く反発しています。

トランプ大統領が、この法案に署名したことで、米中の貿易交渉の行方が、どうなるのか、ますます混沌状態になった、と考えます。

++++
++++

このところのマーケット（外国為替市場）は、中国が発表した「追加した関税を解消する方向」というコメントに、偏っている（反応したままの状態）、と考えます。

米中の貿易交渉に関しては、まだ、正式な発表が無いので、マーケット（外国為替市場）には、期待感が残っているのだ、と考えます。

しかし、米国の対応は、今回、何かしらの合意があったとしても、それは部分的な合意に過ぎず、中国に対する見返りは、ほとんど無い、と推測します。

結論として、米中の貿易摩擦問題は、まだまだ続く、と考えます。

++++
++++

(2019年12月10日東京時間15:10記述)